

帰国レポート

名 前：	藤倉喜恵
所 属：	名古屋工業大学大学院 工学研究科 未来材料創成工学専攻 2年
派 遣 先：	Imperial College London
研究テーマ：	ICL-NIT Joint Seminar
派遣期間：	2010年 8月 1-10日
本学側指導教員：	春日敏宏 教授、中山将伸 助教
派遣先側指導教員：	Dr. Julian R. Jones
具体的な研究内容：	<p><目的></p> <p>Imperial College London (ICL), Queen Mary, University of London (QMU), および名古屋工業大学(NIT)の各大学の研究員および学生による研究発表および各研究テーマに対する意見交換、国際交流を目的として、本セミナーに参加した。自身は留学先である Imperial College London での研究経過の発表を行った。また、ICL および QMU の研究室訪問、研究室紹介を行った。</p> <p><成果></p> <p>セミナーでは、ICL, QMU より各5名、NIT より4名の計9名が各自の研究内容について発表を行った。主に生体材料に関する発表が中心であった。ICL および QMU の研究については、生分解性高分子と骨再生に有効とされる有機化合物とのハイブリッド材料や、生体活性ガラスをベースにマグネシウムやストロンチウムを添加したガラスの特性評価など、生体材料の素材に関する研究が主であった。NIT のグループからの発表は生体材料に関する研究以外に結晶の分子動力学計算シミュレーション分析やケイ素系有機金属前駆体からのセラミックスの合成開発などといった生体材料以外のテーマの研究についての発表もあった。各発表の後に設けられた質疑応答の時間では、専門分野の違いに関わらず議論が活発に行われた。特に専門分野外の先生からの意見・質問は、各自の研究を異なる角度から見直すことができる良いきっかけとなった。</p> <p>研究室訪問では、ICL の Materials グループの建物、および QMUL の Robert Hill 教授の研究室の二つをメインに見学した。後者では、教授直々に研究内容についてレクチャーを受け、歯科用材料への応用を目指したガラス材料について学んだ。</p>

派遣先研究室に関して（担当教授・構成人数・研究活動スタイル）：

担当教授：Dr. Julian R. Jones

構成人数：教官 1 名、ポスドク 2 名、研究員 1 名、博士課程 7 名、修士課程 8 名
有機無機複合ハイブリッド・多孔質ガラスをベースとした生体材料についての研究

参加したワークショップ・セミナー等について：

ICL-NIT Joint Seminar

今後の抱負：

- ・ NIT で行っていた研究の材料に対し ICL でのガラス材料を組み合わせた新たな材料開発
- ・ 英語での発表、質疑応答の練習

今後派遣される研究者へのアドバイス・メッセージ：

自身の研究分野外の発表に対しても積極的に質問、議論しましょう。



Fig. 1 ICL-NIT Joint Seminar 全員集合写真



Fig. 2 ICL Material Department 見学中の様子



Fig. 3 QMU 見学時の集合写真